

# 第1回青年吟剣詩舞道研修会 時間割

## 初日 6月29日(土)

13:00~13:20	〈開講式〉
13:20~13:40	1、礼節・吟剣詩舞道憲章について 沼崎 富会長
13:40~14:00	2、吟剣詩舞の現状について 広渡英治専務理事
14:00~14:45	〈休憩〉=記念撮影・チェックイン・着替え=
14:45~16:15	3、ボイストレーナー・MISUMI氏による講座
16:30~18:00	4、スポーツトレーナー・安藤ひろゆき氏による講座
18:00~19:00	〈夕食〉
19:00~20:00	5、講義① 〈吟〉吟詠講義1 スーパーチームの課題曲「川中島の戦い」に挑戦① [講師]河野鶴聲・和田彩楓・八代光晃子・向山侑真 〈舞〉剣詩舞講義1 モデル演舞をもとに指導(剣舞・詩舞各1名) [講師]入倉昭山・藤上翔山
20:15~21:45	6、講義② 〈吟〉吟詠講義2 スーパーチームの課題曲『川中島の戦い』に挑戦② [講師]河野鶴聲・和田彩楓・八代光晃子・向山侑真 〈舞〉剣詩舞講義2 スーパーチーム曲『Fantasy』をみんなで舞おう [講師]早淵鯉将
22:00	〈帰室・就寝〉

## 2日目 6月30日(日)

6:30	〈起床〉
7:00~7:50	〈朝食〉=チェックアウト=
8:00~9:15	7、講義③ 〈吟〉吟詠講義3 個人指導 その1(研修吟詠) 講師:河野鶴聲・和田彩楓・八代光晃子・向山侑真・清水錦洲 〈舞〉剣詩舞講義3 和楽器バンド曲『反撃の刃』をみんなで舞おう 講師:入倉昭山
9:00~10:30	8、講義④ 〈吟〉吟詠講義4 個人指導 その2(研修吟詠) 講師:河野鶴聲・和田彩楓・八代光晃子・向山侑真・清水錦洲 〈舞〉剣詩舞講義4 舞のワンポイントアドバイス 講師:杉浦英容
10:45~12:00	9、班別意見交換会(4班8グループ)
12:00~13:00	〈昼食〉=着替え=
13:00~14:30	10、全体意見交換会(吟詠・剣詩舞合同で9の意見を集約する)
14:30~15:00	〈閉講式〉

〔日時〕平成31年6月29日(土)~30日(日)

〔場所〕成田東武ホテルエアポート・2階会議場「松柏」

〔主催〕公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

指導者を養成するための重要な会のひとつ。ここで学んだことを持ち帰って、我が国で生まれた吟剣詩舞を次世代に引き継いでいく存在になっていただきたい」と会の意義を伝えました。

受講生は吟詠、剣詩舞混じった形で約20人ずつ4班に分かれ、それぞれ班長・副班長が選ばれましたが、班長はスーパーチームのメンバーが務めました(左下コメント参照)。2日間の日程は右ページの表のとおりですが、まず1日目の午後は座学を中心にした講義、夕食後と2日目午前中は吟詠・剣詩舞に分かれて実技の講義(次ページ参照)が開催されました。

外部講師による講座で、発声に關したMISUMI氏の講座の時は吟詠メンバーが前に、トレーニングに關する安藤ひろゆき氏の講座の時は剣詩舞のメンバーが前にきて受講。実際に声を出したり身体を動かしたりの内容に受講生も「はじめて聞いたことが多くて非常に参考になりました」と大好評

## 青年大学をより身近にした 研修会を初開催

# 第1回

# 青年吟剣詩舞道研修会

2年前、13年ぶりに第3回目が開催された青年吟剣詩舞道大学。充実した講義と役員との意見交換会などふだんの活動では味わえない中身の濃いイベントとなり、多くの参加者から「定期的に開催してほしい」との意見が寄せられました。その要望に応え、このほど青年大学と同じ18~35歳までの吟剣詩舞愛好家を対象に「青年吟剣詩舞道研修会」を初開催、計81人が成田の地に集いました。吟詠・剣詩舞スーパーチームのメンバーも16人が参加、指導役を果たすなど改革の充実度を感じさせる意義ある研修会となりました。

でした。

班別意見交換会は一つの班の中で吟詠と剣詩舞に分かれ、計8グループに分かれて実施、「3年後の吟剣詩舞の展望とそこに至るために必要なことは」をテーマに活発に意見を交換しました。その内容は最後の全体意見交換会で発表され、財団役員にも熱心な質問や意見が交わされました。「頻繁に開催を」という要望に対しては

広渡英治専務理事が2年後の開催を約束しました。

大いに盛り上がりを見せて終了した2日間を振り返り沼崎会長は「初の試みでしたがやはり若い方は活力があるなど感心しました。意見交換会が出たさまざまな要望にも応えられるよう、これからも改革を進めてまいります」と、若い世代とともに吟剣詩舞発展のために尽力することを誓いました。

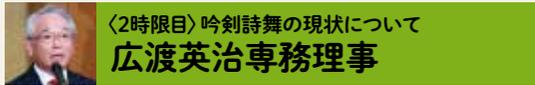
日頃熱心に吟剣詩舞に取り組む81人の若者が全国から参加、充実した講義を受けるとともに新しい仲間と交流を深めた



右上:スポーツトレーナー・安藤ひろゆき氏はスポーツ・稽古の前の動的ストレッチングの効果を強調。片足立ちでヒザをひきつけるという動作を両足交互に繰り返しながら、皆で部屋を周回する  
右下:ボイストレーナー・MISUMI氏は心身技法の「アレキサンダーテクニーク」に基づいて呼吸法、発声法を指導。身体の構造から説明してさまざまな呼吸、発声の仕方をレクチャーした  
左:班別意見交換会は4班をさらに吟詠と剣詩舞のグループに分け、「3年後の吟剣詩舞の展望とそこに至るために必要なことは」をテーマに、講師陣も交えて活発に意見を交わした



〈1時限目〉礼節・吟剣詩舞道憲章について  
**沼崎 富会長**



〈2時限目〉吟剣詩舞の現状について  
**広渡英治専務理事**



〈3時限目〉ボイストレーナーによる講座  
**MISUMI 氏**



〈4時限目〉スポーツトレーナーによる講座  
**安藤ひろゆき氏**

### 1班班長 五月女凱男

「青年大学の時より和気藹々として柔らかな雰囲気でした。スーパーチームは指導もできましたがかなり緊張しました。でも吟剣詩舞道祭で5日間やったことが自信になっています」



### 2班班長 見城星梅月

「青年大学も出ましたが初めての方はやはり緊張していました。研修として振付や指導もできましたがここまでがっちりやると思わず驚きました。2時間で皆さんよくできたと感心しました」



### 3班班長 井戸水帝

「こんなに若い人がいるんだと驚きました。『川中島』は僕らかなり苦勞して覚えたけど、2時間でマスターしたのでびっくりしました。もっとこういう交流できる場ができるといいですね」



### 4班班長 森田夏星

「同年代の人と集まる機会が少ないのでとても楽しいです。皆と一緒に何かするというイベントは非常にいいですね。ボイストレーニングは自分の弱点も知れて勉強になりました」





スーパーチームが何度となく舞ってきた『Fantasy』はテンポの早いむずかしい曲。4班に分かれて各班のスーパーチームメンバーが研修の一環として受講生の指導にあたった



上: 昨年の和楽器バンドの新年ライブに日本壮心流がゲスト出演。入倉昭山宗家(左端)の振付で『進撃の刃』を披露したが、その激しい舞も練習  
全国剣詩舞コンクールで数多くの優勝者を輩出している天辰神容流の杉浦英容宗家が、詩心表現を重視した舞のワンポイントアドバイスを指導した



「大変緊張しましたが、スーパーチームの方々にアドバイスをいただき、非常に貴重な経験になりました。全国からいろんな流派の方が集まることはなかなかないので、楽しくて勉強になります」モデル演舞で『中庸』を披露した上木榮理さん

# 高難度の『Fantasy』 『反撃の刃』をマスター 剣詩舞講義

## 剣詩舞講義①

〈モデル演舞をもとに指導〉

剣詩舞講義の最初は剣舞、詩舞一人ずつモデル演舞を行い、研修の一環としてスーパーチームのメンバーが批評するという内容。まず剣舞は真舞流吟舞道会の女性剣士上木榮理さんが『中庸』を披露。「目力がある」と評価されましたが、「決めのポーズの時間が短すぎてもつたいない」などの意見がありました。

その後で入倉昭山講師が模範演舞。早淵鯉将講師が「これくらい自分が一番と思って舞うことが大

## 剣詩舞講義③

切」とユーモアまじりにアドバイスしました。詩舞は吟詠詩舞道玉翠流翠混会の若本翠肖さんが『汪倫に贈る』を舞い、藤上翔山講師が模範演舞を披露しました。  
〈スーパーチーム曲『Fantasy』をみんなで舞おう〉  
『Fantasy』は元々津軽三味線の吉田兄弟のオリジナル『RISING』にあわせて振付されたもので、テンポが速くペアダンスも取り入れるなど非常にむずかしい舞。4班に分かれ、それぞれスーパーチームメンバーが自らの研修課題として指導にあたりましたが、メンバーも「自分で舞うのも指導するのもむずかしい」と四苦八苦。しかしさすがに気合いを入れて参加している受講生だけあり、2時間のうちに見事に群舞の形になりました。

## 剣詩舞講義④

最後の講義は杉浦英容講師による舞の表現上のアドバイス。ひとくちに海といってもおだやかな海、荒海などさまざまなのでそれをどう表現していけばいいのかなど、表現方法と詩心表現についてわかりやすく解説していただきました。



『川中島の戦い』の模範吟詠をする吟詠スーパーチームの5人。男女で輪唱のようになりたり男子の中でさらに2部に分かれるなど複雑な構成だが、2時間の練習でみなマスターしていった(右)。3グループに分かれて『川中島の戦い』を発表。ふだんは練習しないような難曲に全員が精一杯挑戦して見事に詠い切った(左上)。個人指導では一人ずつ自分が選んだ吟題を詠い、河野鶴聲、和田彩楓、八代光見子、向山侑真、清水錦洲各講師が指導(右下)

# 吟詠講義

## スーパーチームの 『川中島の戦い』に全員が挑戦

5〜8時限目は吟詠と剣詩舞に分かれての講義。吟詠では『川中島の戦い』、剣詩舞では『Fantasy』と『反撃の刃』などふだん練習する機会のないオリジナリティーあふれる吟と舞に挑戦しました。各講師とともにスーパーチームメンバーも研修として指導役を務め、「同年代だと緊張せず教えてもらえる」と好評でした。

## 吟詠講義①、②

〈スーパーチームの課題曲『川中島の戦い』に挑戦〉

昨年の武道館大会で吟詠スーパーチームと剣詩舞スーパーチームが初めてコラボした時の『川中島の戦い』に挑戦するという企画元になる吟題はもちろん『不識庵機山を撃つ』の図に題すですが、まずセリフから入り、男女混声でハーモニーを入れた吟詠、最後は琵琶吟のような節調という非常

## 吟詠講義③、④

〈個人指導(研修吟詠)〉

2日目は計28人がそれぞれ希

に高度な難曲。

この曲をスーパーチームの5人がまず模範吟詠を行い、それを3グループに分かれて学ぶという展開ですが、吟詠の部分も男女で輪唱したり、さらに男性の中でも高音と低音の2部に分かれるなど非常に複雑で、はたして2時間で形になるものか不安もありました。

しかし受講生一同、ふだんはまじやらないような吟詠にチャレンジ精神を刺激されたか、講師の先生が「もう時間」といつても練習をやめません。結局初日に行う予定だった3グループの披露はタイムオーバーとなり、1グループは翌日に持ち越しとなりました。それだけに皆、達成感に包まれた挑戦となりました。

## 吟詠講義③、④

〈個人指導(研修吟詠)〉

2日目は計28人がそれぞれ希

望の吟題を詠い、講師が指導する研修吟詠を2時間15分にわたって実施。転句の途中まで詠ったところで止めて各担当の講師が寸評を加え、場合によっては部分的にもう一度詠います。日頃の流派の師匠の指導とはまた違った指摘に受講生一同納得の研修となりました。

「母からも勧められて参加しましたが、皆さん字はうまい姿勢が強くあって、同世代だからこそ共感できる部分が多くありました。ポイントも元々興味があって勉強になりました」池田富繁少壮吟士会会長の娘さんである池田垣昌さんも参加



「低音のブレに関してご指摘いただき、矯正するための方法を教えていただいたので、自主練でやっていきたいです。青年大学も出ましたが同じ道を歩む方との意見交換が参考になります」飯塚焦峰さんは清水錦洲講師から松川利夫先生譲りの熱血指導を



〈和楽器バンド曲『反撃の刃』をみんなで舞おう〉

昨年の武道館大会に出演した鈴華ゆう子さん率いる和楽器バンドの新年ライブに出演した日本壮心流が、横浜アリーナの大観衆の前で披露した『反撃の刃』のレッスン。アップテンポな曲に合わせてリズムカルに舞うことが要求される。これまた難曲ですが、入倉昭山講師と昭風、昭鳳兄弟の指導により、皆必死にくらいいついてきました。

## 剣詩舞講義④

最後の講義は杉浦英容講師による舞の表現上のアドバイス。ひとくちに海といってもおだやかな海、荒海などさまざまなのでそれをどう表現していけばいいのかなど、表現方法と詩心表現についてわかりやすく解説していただきました。